

---

# 歪愛

茶々

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

歪愛

### 【Nコード】

N1003N

### 【作者名】

茶々

### 【あらすじ】

『アイ』の形は、人それぞれ。

**（前書き）**

貴方の愛する人を思い浮かべてみてください。

月夜の下、はだけた服の下から覗く素肌は、まるで白い彫像の様に美しい。

そつと指を走らせれば、くすぐったそうに彼女は身をよじった。

真っ赤に染まった顔は、潤んだ瞳と共に僕に向けられている。  
それはどんな魔法よりも強力で、誰でもない僕を君の虜にしま  
う。

奪う様に、それでも優しく丁寧に、彼女の唇に自分のそれを重ねた。  
視界いっぱい広がるその顔は、今まで見たどの顔よりも艶やかで、  
綺麗で。

全てが欲しい。君の全てを、僕だけのものにしたい。

狂っているのかもしれない。毒されたのかもしれない。  
でも、それでもいい。

白い肌に指を走らせれば、どんな風に悶えてくれるのか。  
柔らかい膨らみを掌中で弄べば、どんな風に声をあげてくれるのか。  
彼女の一番大事な場所を僕の色に染めれば、どんな風に踊ってくれ

るのか。

知りたい。知りたい。知りたい。

君の全てを、何もかもを。僕だけの色で染めて、僕だけのものに  
して。

それを狂うというのなら、僕は喜んで狂ってやるさ。

ねえ、刹那。

こんな風にしか君を愛せない僕を、君はどう思う？  
こんな形でしか想いを伝えられない僕を、君はどう思う？

答えてはくれない。だって彼女の口は僕がいま塞いでいるから。

口を離せば、きっと彼女は嬌声をあげて踊り狂う。僕の指の動き一  
つで、彼女の全てを想いのままに出来る。

そんなのはつまらない。もっと、もっともがいてくれよ。

僕の腕の中で必死に身体をよじる君が、何よりも愛おしい。もっと  
足掻いて、抵抗して、そしてそれでも尚、君は僕から逃れられない。

僕が君に狂った様に、君も僕に狂うから。狂わせてみせるから。  
今はまだ大丈夫でも、いずれ僕しか見えなくしてみせる。

だから今は、まだ純粹に彼女を想える自分がいるこの刹那は。

ただ想いのままに、君を求めたい。

（後書き）

以前書いた短編を手直したものです。『刹那』は適当に思い浮かんだ名前なので、お好きに変換して下さい。

何というビター!!

みたいな感想を抱いて頂ければ幸いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1003n/>

---

歪愛

2010年10月12日08時28分発行